



スタッツの ツボ!

～船出式～

あっという間に一年が過ぎ、いよいよ卒業シーズン。中学や高校はすでに卒業式が行われるなか、スタッツでは「船出式」を行います。二歳の時、泣きながらバスに乗ってきた子ども達が、六歳になり、一月からチャレンジしてきた、42.195キロマラソン、2017回がけのぼりを見事達成しました。

このチャレンジの事を伝えた時はどの子ども、驚きを隠せない様子でしたが、辛い時は助け合い、小さな一歩一歩をみんなで喜びながら、直実にゴールすることができました。

この先、壁にぶつかっても、こんなすごいことをやりとげた君たちは、きっと乗り越えることができるはず。そんな話をしました。ありきたりな言葉だけれど、シンプルにそんな強い気持ちを持った子になってほしいと思っています。

他の幼稚園とは違って、毎日とことん遊んで、楽しい刺激いっぱいスタッツが終わってしまうのは、とても寂しいです。終わってほしくない!

でも、六歳の子ども達の人生は、むしろここからがスタート。この日から壮大な人生という大海原に漕ぎだす子ども達の背中をしっかりと見届けてあげたいと思います。



子育てママに贈る! 子どもにちょっといい話

「夢をあきらめると夢がかなう?」「お?何?この本?」と思いがら、JDクランボルツの著書を読みました。1つの「夢」に固執すると、他の「学び」を受け入れなくなり、もったいない、新たな「学び」や偶然の「出会い」の機会を増やすことで、キャリアや人生が豊かになるという内容です。

どうなるか分からない将来を予測して、自分の職業を決めることは無理なのではないか、むしろ、今、目の前にあることに対して、オープンマインドでいて、自分のできることをやってみようという気持ちで、将来のキャリアを作っていくのではないかとクランボルツ理論に納得。本を読みながらひとりで頷きまくりでした。

塾に通ってくれている子たちも、「将来の夢がない」という子が多いです。でもそれでいいんです。子どもたちに必要なのは、「将来の夢はこれ」と決めるのではなく、「将来、夢(天職)」に出会うチャンスを得ることや、それに会ったことに気付くこと。無条件で目の前にあることを努力することや自分の可能性を広げることを心掛けていなければ、なかなかこれはできないと思います。どうすれば、子どもたちが、目の前のことに本気で取り組めるのか。今の自分のできることは、勉強を通して、「自己重要感」を高めることでであると改めて感じました。勉強を教えることの意味は、教科の内容だけでなく、こういうマインドづくりにあると考えています。



子どもって、 ホントおもしろい!

成長のタイミング

子どもたちはいつ成長するのでしょうか? 何かを成し遂げたとき? 何かに失敗したとき? どれも違うと感じています。それは、自分で何かを決めたときです。心の中で成長したいと強く感じるタイミングがあります。それを適切に表現したのが「啐啄そったく」という言葉です。意味は、ひな鳥が卵の殻を破って出ようとするときに、母鳥が殻を外からつつくことで殻を破る手助けをするというものです。まさに教育現場にも当てはまる考え方だと感じています。まずは、子どもたちの「やりたい!」「成長したい!」という心があって、それを環境や声掛けでサポートするのが教育者の役割なんですね。ただ難しいのが「殻を破りたい」と思うタイミングが一人ひとり異なるところです。それは今日かもしれないし、明日かもしれない。もしかしたら一か月後、一年後かもしれない。ただそのためには、継続的に関わる場が必要だと感じています。子どもたちが殻を破りたいと思ったそのタイミングに、チャレンジする機会があること。それが子ども自身で成長する大きなきっかけへと繋がってゆきます。そんな風に長い目で子どもたちの心が育つ場所を作る大切さを日々感じています。



一歩先へ

新聞だけでなく、ネットニュースでも速報が流れていたのも、ご存知の方も多でしょう。名古屋市教育局が、教員の負担軽減などのため、小学校の部活動を2021年3月末に廃止すると、市議会で答弁しました。それに代わる場を、教員が関わらない形で、つくれぬか研究するそうです。部活は、子どもたちがスポーツや文化に親しむ場です。その一方で、先生たちの負担増につながるという指摘もあります。

私見です。先生たちが多忙なのは、私がPTA活動に参加してお話を伺っていてもよく分かります。しかし、その先生たちと子どもたちが一緒に過ごせる時間である部活を一律に廃止するというのは、どうだろうと感じます。他にできる仕事はないのでしょうか?

さらに、私が最も気になるのは、授業後の子どもたちの居場所が、地域からなくなってしまうという点です。昭和の駄菓子屋のような子どもたちを見守る場所が地域には必要だと思います。そんな駄菓子屋はほとんどありません。加えて、部活もなくなってしまう…。土日の引率が負担ならば、土日は、保護者や地域の住民で面倒を見るなど、先生たち、保護者、地域、みんなで力を合わせて、子どもたちの居場所を地域に残せるといいなと思います。私にできることはないのか、考えてみます。